

水や形態安定、ホルマリ  
ン除去といった縫製品の  
あらゆる特殊加工に対応  
できる「マルチパフォー  
マンス」システムなど技術開  
発を強化する。ベトナム  
拠点を活用し、インドネ  
シアやカンボジアなどへ  
の出張での検品や修整業  
務も拡大する。

東京には春江(東京都  
江戸川区)、篠崎(同)  
に工場があるが、業務が  
増えてきたことから工場  
の新設も計画する。日本  
各地や中国、ベトナムに  
拠点を持つ強みを発揮  
し、「お客さんに安心を  
売る」との考えで事業の  
拡大を進める。

## 山口県繊維加工協同組合

### 人材育成でメイドイン・ジャパン発信

#### シンポジウムで方向性討議

山口県の縫製関連企業  
で構成する山口県繊維加  
工協同組合は、今年から  
産地機能を高度化させる  
ことを目的とした人材育  
成事業を開始する。11日  
には、その方向性を討議  
するシンポジウムを山口  
市内で開催した。

同組合が実施する人材  
育成事業は、山口県企業  
立地促進基本計画の推進  
事業を受託したもので、  
縫製を中心とした生産基  
盤を強化することで産地  
機能の総合的な高度化を  
目指すもの。縫製に携わ  
る人材がパターンなど衣  
料設計の技能を総合的に  
有することで、デザイン

から設計、縫製まで一体  
的に担える新しい産地の  
構築が目的となる。

同組合の岡部泰民理事  
長は「インフラよりも先  
に人材を作れば機能が生  
まれる。パターンから縫  
製まで担える産地になる  
ことで、デザイナーがア  
イデアを山口に持ち込め  
ば、すぐに製品ができる  
ようになる」と話す。こ  
れにより山口県を「メ  
イドイン・ジャパン」発信  
の拠点として構築する。

人材育成事業の第1弾  
として9月19、26日、10  
月3、31日の4日間、  
「ファッション衣料の設  
計セミナー」を雇用能力  
開発機構ポリテクセンタ  
ー(山口市)で開催す  
る。日本モデリスト協会  
運営委員の東レ・ディ  
ロモード、織茂健司レリ  
アン事業部チーフパタン  
ナーを講師に招き、県内

の縫製関係者・学生を対  
象に研修を行う。

また、今回の人材育成  
事業のPRも兼ね、11日  
にはシンポジウムも開催  
した。シンポジウムでは  
日本モデリスト協会の本  
多徹事務局長が基調講演  
を行い、イタリアの繊維

産地ではモデリスト(パ  
ターンナー)が大きな役  
割を果たしていることを  
紹介した。

その後の討議では山口  
井筒屋の河内一彦社長、  
山口経済研究所の宗近孝  
憲調査研究部長、本紙  
「繊維ニュース」の宇治

光洋記者もパネラーに加  
わり、今後の山口産地の  
方向性、メイドイン・ジ  
ヤパン発信の道筋などを  
流通、地域経済、ジャ  
ナリズムそれぞれの視点  
から討議した(4面に連  
載)。